

2020年5月15日
一般社団法人Jミルク

医療・児童・福祉施設などに牛乳を無償提供 新型コロナ感染拡大を受け、緊急事業を実施します

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、生乳（牛乳・乳製品の原料）需給が大幅に緩和していることから、一般社団法人Jミルクは農林水産省、独立行政法人農畜産業振興機構の支援を受け、全国の酪農乳業関係者ととも「牛乳の無償提供」の取り組みを実施いたします。

医療施設、児童福祉施設、フードバンク、高齢者施設など、希望があった施設・団体に、地域の乳業メーカーなどから牛乳を無償で提供するものです。新型コロナウイルスの影響で、酪農家が生産した生乳が行き先を失って捨てるを得なくなるのを防ぐとともに、感染拡大防止に尽力されている医療現場をはじめ、学校の休校や仕事の休業などさまざまな要因で「食」や「栄養」への不安をお抱えの方々に新鮮な牛乳を届けたいとの思いから、緊急的に実施します。

1 取り組みの背景と目的について

(1) 生乳需給の急激な緩和と廃棄発生の恐れ

政府の緊急事態宣言を受けた飲食店、ホテルなどの休業や時短営業、学校の臨時休校（学校給食の休止）などによって、特に、業務用の牛乳・乳製品の需要が大きく減少しています。一方、5、6月は全国の生乳生産量が増加してくる季節で、需要と供給のバランスが大きく崩れています。牛は生き物で、毎日の搾乳を止めると病気になってしまうため、酪農家は日々の搾乳を続ける必要がありますし、生乳は生鮮品であり保存ができません。

新型コロナウイルス感染拡大以降、業界を挙げて需給ギャップを埋める努力が続けられていますが、特に5、6月は行き先がなくなり、捨てるを得ない生乳が発生する恐れがあります。こうしたことを回避しようと、この取り組みが企画されました。

(2) 医療関係者、児童福祉施設、高齢者施設などへの支援の必要性の高まり

牛乳は、カルシウムやタンパク質が豊富で、多くの栄養素がバランス良く入っている食品です。食事やおやつに牛乳を加えるだけで、全体の栄養バランスが改善されます。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、学校給食の休止、仕事の休業などによって十分な栄養をとれていない方の切実な状況が連日、伝えられています。こうした方々のために役立ちたいとの思いからも、今回の取り組みが企画されました。

そして、もちろん、寸暇を惜しんで激務を続けておられる医療従事者の方々にも、栄養補給

の一助にさせていただきたいと考えています。

2 取り組みの概要について

農林水産省、農畜産業振興機構の「生乳需給調整緊急支援事業（牛乳等消費拡大対策事業）」の支援を受けて、各都道府県の牛乳普及協会や農協連合会などの協力のもと実施します。事業規模は約 22 億円で、これが全て活用された場合、およそ 1 万トン（1000ml パックで換算した場合、1000 万本）の供給が可能です。

無償提供の期間は 6 月 14 日までです。既に、この趣旨に沿った無償提供を実施した酪農乳業関係者も多いことから、4 月 27 日まで、さかのぼってこの事業の対象としています。

今後、無償提供を希望する施設・団体は、各都道府県の牛乳普及協会や農協連合会など、都道府県の受付窓口となる団体に申し込み、それらの受付窓口が乳業メーカーなどと調整した上で、牛乳（200ml、1000ml のどちらか）などを当該施設・団体に届けます。都道府県の受付窓口は J ミルクホームページに掲載します。

受け付けは 6 月 9 日までとなります。

3 対象となる施設・団体について

提供対象として、次のような施設・団体を想定しています。

- 病院・保健所など感染症の対策や治療に取り組んでいる医療関係機関
- デイサービスセンター・養護老人ホーム・老人福祉センターなどの老人福祉施設
- 保育所・認定こども園・学童保育所・児童養護施設・児童家庭支援センター・母子生活支援施設などひとり親支援施設・団体・助産施設・乳児院などの児童福祉施設など
- フードバンク
- 子ども食堂 ほか

以 上

※本リリースは農政クラブ、厚生労働記者会、文部科学記者会に同時に提供しています。

※詳細は J ミルクホームページ（<https://www.j-milk.jp/>）で掲載しています。

【本件に関するお問い合わせ先】
一般社団法人 J ミルク 生産流通グループ
東京都千代田区神田駿河台 2-1-20 お茶の水ユニオンビル 5 階
電話：03-5577-7492、7493
Email: free-milk@j-milk.jp (この事業のための特設アドレス)